２０２１年9月9日
担当：大竹優子

資料

０）　Foreword

Henry Stein ： Alfred Adler Institute of San Francisco（←1990 年当時。現 Alfred Adler Institute of Northwestern Washington ）
アドラーが亡くなった後にアドラー心理学の仕事をした人たちの名前が挙がっている。リディア・ジッヒャー、アレクサンダーミュラー、 アレクサンドラ・アドラー、クルト・アドラー、ハインツ＆ロウェナ・アンスバッハー、などなど。（ドライカースの名前がない！）
他にもいろいろな人たちが、アドラー心理学を普及させようとして理論をシンプルにしたり、診断と治療を構造化したりした。それは確かに学びやすいしとっつきやすいかもしれない。それらはアドラーの治療、奥深くて創造的で温かみのある治療へのアプローチを犠牲にしたが、親教育センターの発展には著しく貢献した。
ジッヒャーは、アドラーの理論（theory）、哲学（philosophy）、実践（practice）を奥深く理解した、著名な、究極的に忠実な古典的アドレリアンである。
編者の Davidson について（→ 4)参照）

１）Preface から

リディア・ジッヒャーってどういう人？→心理学、とりわけアルフレッド・アドラーの心理学の体系、知識において絶大な貢献をした人。アドラーのもとで近しく研究、仕事をし、faithfully にコミュニケーションし、彼の考え方を represent（アドラーの代わりに表現）する。

1920 から 1930 年頃にかけて、アドラーの理論や実践が熟し、学校やクリニックでの実践が盛んに行われていた。アドラーはオーストリアを離れてアメリカへ移るにあたって、ウィーン個人心理学会とそのすべての活動をジッヒャーに託した。ジッヒャーは、ヒトラーによって閉鎖されるまでの 9 年間、その活動を続けた。
ジッヒャーを読むと、アドラーの理論だけでなく、アドラーを活きた人物としてつかみ取ることができる。彼について知られていることに、さらに逸話を重ねる事によって。なので、彼女の音声テープを保存することはとても重要なのである。また、ヒトラーによってアドラーとその仲間たちの間に作られたギャップを埋めるものとしても、大変重要なものである。
ジッヒャーは、彼女独特のやり方で、専門家と非専門家の両方に、人生の問題（を解くこと）について多くを捧げた。その貢献を保存するために、この本は出版されるのである。

２）概略的伝記　Lydia Sicher, M.D., Ph.D. (1890-1962)

1890 年、ウィーンの Lydia bak に三人きょうだいの末子として生まれる。
1910　Wiener Humanistische Mädchengzmnasium　（ウィーン女子ギムナジウム）卒業
1916　ウイーン大学で医学の学位を取る。
細菌学、病理組織学、病理解剖学の仕事もした。
1915　終わり頃から　夫の　Harry　Sicher（ウィーン大学の解剖学教授）とともに、オーストリア軍に中尉として

内科医として従事。その頃猛威を振るっていた腸チフス感染に対する仕事をモンテネグロとの国境で行い、また、イタリアの占領地でマラリアとも闘って軍や赤十字から勲章を受けた。
1918　停戦、軍隊解除。病理学、解剖学、放射線学を学ぶ一方、動物学で 1922 年に哲学博士号を取得。
　ウィーン大学で Wagner-Jauregg と Otto　Pötzl のもとで精神医学と神経学を学び、ウィーンの診療所でパートで働いていた。
ジッヒャーは伝統的な教育を受けており、ラテン語、ギリシャ語が読め、ドイツ語、英語、フランス語が話せた。国境近くの病院で働いたときにはそこで講義をするために、多くのスタッフの母語であるセルビア-クロアチア語を独習した。

1919　フィリス・ボトムによれば、精神科医として外来診療していた時に、患者さんについて相談したことで、アルフレッド・アドラーに会ったという。が、ジッヒャー自身によれば、その前から「共同体感覚」という概念から、17 才の時（1907）にアドラーを知ったとのことである。
1923　個人心理学会に入会。その前からフロイトの精神分析を勉強していたが、ジッヒャーが“Sicial Interest“で述べているように、フロイトは患者がなぜ問題を抱えるのかは説明できたが、そこから抜け出す道を与えることはなかった。一方アドラーは、人々が自分自身を問題から救い出すためにとれる可能性のある道を指し示した、と彼女は語った。
アドラーはジッヒャーと医学生の Franz Plewa をウィーンで彼の代わりとなるようトレーニングした。二人はアドラーが始めたウィーンのフランツ・ヨーゼフ外来診療病院マリアヒルファーで、アドラーのもとで働いた。
1929　アドラー、アメリカへ。アドラーは彼の後継者としてジッヒャーを、クリニックの所長とウィーン個人心理学会の頭に任命した。
1932　6 人の共同編集者と共に国際個人心理学雑誌（International Journal of Individual Psychology）の編集を始めた。
1929 から 1938　イギリス、オランダ、ラトヴィア、リトアニア、ポーランドで講義や講演を行う。
1938　ウィーンを離れる。
重篤な交通事故に合い、イギリスで一年療養してその後、夫を追ってアメリカに 1939 年に渡る。
アメリカアドラー心理学会で講演、Journal of Individual Psychology の編集委員メンバー。ユタ大学やユタ州の様々な学会などで、主にソーシャルワークの学部で講義。
1941　ロサンゼルスへ。
1948　ロサンゼルスで最初のアドラー心理学のグループ　The Institute　for Individual Psychology をたちあげる。このインスティテュートは低所得者のためのサービスである Alfred Adler Counseling Center を支援し、非専門家のための講座を開催した。この間ジッヒャーはカリフォリニアに Child Guidance Clinic in Bakersfield を立ち上げる。数年後、アドラー心理学の理論と技法における専門家教育のための組織であるロサンゼルス・アルフレッド・アドラー協会（Alfred Adler Society of Los Angeles）設立に携わった。
1990　現在このインスティテュートとアルフレッド・アドラー協会は存在しないが、その影響は今でも色濃く残っている。

セクション 1. の「共同体感覚」にあるように
The interconnectedness of human beings ・・・ is like throwing a pebble into the ocean and causing a movement of concentric circles ・・・ we do not always see how far these circles go, nontheless they are there. ・・・ this movement continues to move other particles of water, even if the movement cannot be seen. In the same way, whatever people do is of importance and their immortalization remains.

人と人のつながりは・・・海に小石を投げて同心円の波紋を起こすようなものです。・・・その波紋がどこまで行くのか、見届けることを普通はしませんが、それでもそれは、そこにあります。・・・動きが見えなくなったとしても、その運動は水の他の粒子を動かし続けます。それと同じように、どんなものであれ人の行動は重要なのであり、不滅（の影響として）残るのです。

彼女の不滅性について、アドラー派らしく逸話で語ってみよう。ある同僚が私に聞いたことがある。「ジッヒャーは亡くなってるの？」私は「そう」と答えた。彼は言った。「でも彼女のことを話すとき、あなたはいつも現在形を使うじゃない？」 そう、彼女の永遠の影響は、私にも、彼女から教育を受けた他の人々の中にも残る。Marcelle Robinson 博士が “Sicher Remembered,” で述べているように、彼女は、人々がこれからの人生において自己修正のパターンの中に居続けられるようにしてくれたのである。

３）この本について

ジッヒャーは講義のテープ録音と論文を残している。この本には、このふたつの資料が入っている。
1．講義のテープ起し。1950 年から 1961 年までの 11 年間のもの。
2．出版された著作。

テープ起しについて、ジッヒャーは講義が書き起こされて読まれることなど予測していなかったので、テーマの中にはまとまりなくあちこちに散らばっているものもあったり、また、繰り返し部分があった。また、口語での講義を読むための文体にしなければならなかった。テープの中には聞き取れないものもあって、抜けるところも出てきた。この本には、テープの中でも代表的なものだけが使われている。
論文については、英語、ドイツ語、イタリア語、フランス語の論文があるとモサック博士の作った文献目録（この本の Appendix G）にある。この本には英語の論文はほとんどすべて掲載されている。（ドイツ語から英語に訳されたものも入っている。）

この本は、ジッヒャーの考えの首尾一貫性が、彼女のもともとのテーマである「共同体感覚」の文脈の中で現われるように、その業績をまとめる意図で編纂されている。この出版が、みんなの幸せに寄与しますよう。

４）編者　Adele K. Davidson　Ed.D.

Foreword を書いた Henry Stein によると、「Davidson はジッヒャーの同僚で、ジッヒャーの残した業績をまとめ上げる仕事を受け継いだ。ジッヒャーは、アドラーの理論を習得するプロセスへの鋭い洞察をわれわれに授けてくれた。彼女はアドラーの「共同体感覚」の、より深遠な意味を理解するのに多くの年月を要した、と語っているが、Davidson は人間というものに関するジッヒャーの他面からの考え方をよくつかんでいる。」Preface には、「私は（ロサンゼルスのアルフレッド・アドラー協会でジッヒャーが担当した、）研究分析をしている専門家向けのアドラー心理学理論クラスに参加した」、と書いてある。

５）　Wagner-Jauregg　ユリウス・ワーグナー―ヤウレック　（1857-1940）

アドラーが 1895 年に三回目の口頭試問を受けたときの主席試験官。医学博士の学位を受けた時の授与式の長でもあった。1912 年にウィーン大学に私講師の地位を申請したときの審査報告を書いた人。（それでアドラーはウィーン大学の私講師にはなれなかった。）

→エレンベルガー『無意識の発見』下,p206 参照

６）　ハンス・ファイヒンガー　（1852－1933）

ドイツの哲学者。カント研究者として、また『かのようにの哲学（Die Philosophie des Als Ob）』の著者として知られる。

『かのようにの哲学（Die Philosophie des Als Ob）』におけるファイヒンガーの主張とは、人間は決して世界の根底的現実を知ることはできないので、思考の体系を構築し、それが現実に適合すると仮定している、すなわち、人間は「あたかも」世界が人の作ったモデルに適合するかのように振る舞っている、というものである。たとえば、物理学における陽子、電子、電磁波といった現象が直接観察されたことは一度もない。だが、科学はこれらが存在するかの如く想定しており、その仮定に基いてなされた考察によって新しくより良い構築物を生み出すのである。

『かのようにの哲学』の英語版の序文において、ファイヒンガーは自らの「虚構主義の原理（Principle of Fictionalism）」を提示している。この原理は以下のように説明される。「ある思想が真理ではなく正確でもない、つまり虚偽であると分かっていたとしても、それだけでその思想が実践的に無価値で役に立たない、ということにはならない。なぜなら、このような思想は、理論的には無価値ではあるが、実践的には大きな重要性を備えているかもしれないからである」。

しかし、この哲学があてはまるのは科学に対してのみでなく、より広い範囲にも敷衍される。（中略）個人心理学の祖・アルフレッド・アドラーは、ファイヒンガーの有用な虚構の理論に深く影響を受け、心理学的虚構という観念を自身の理論に取り入れ、虚構の最終目標（fictional final goal）という概念を考案した。

Wikipedia: ハンス・ファイヒンガー
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8F%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%92%E3%83%B3%E3%82%AC%E3%83%BC

７）　ゲシュタルト心理学

ゲシュタルト心理学（ゲシュタルトしんりがく、*Gestalt Psychology*）とは、心理学の一学派。人間の精神を、部分や要素の集合ではなく、全体性や構造に重点を置いて捉える。この全体性を持ったまとまりのある構造をドイツ語でゲシュタルト（*Gestalt*：形態）と呼ぶ。

ゲシュタルト心理学は、ヴントを中心とした要素主義・構成主義の心理学に対する反論として、20 世紀初頭にドイツにて提起された経緯を持つ。精神分析学や行動主義心理学に比べると、元々の心理学に近いと言える。

８）クルト・レヴィン　（1890－1947）

クルト・レヴィン（Kurt Zadek Lewin, ）は、心理学者。専門は社会心理学、産業・組織心理学、応用心理学。ドイツのモギルノ(Mogilno)（現在はポーランド領）生まれでユダヤ系。「ツァイガルニク効果」の研究や「境界人」の概念の提唱で知られる。

ゲシュタルト心理学を社会心理学に応用しトポロジー心理学を提唱した。ベルリン大学の哲学と心理学の教授を務めていたが、ナチ党の権力掌握で、ユダヤ人の学者は大学から追放された。海外に出ていた彼

は、1933 年 8 月にアメリカに亡命し、1940 年にアメリカの市民権を取得した。コーネル大学教授をつとめ、マサチューセッツ工科大学（MIT）にグループダイナミクス（集団力学）研究所を創設した。「社会心理学の父」と呼ばれ、アイオワ大学の博士課程でレオン・フェスティンガーなどを指導した。リーダーシップスタイル（専制型、民主型、放任型）とその影響の研究、集団での意思決定の研究、場の理論や変革マネジメントの「解凍―変化―再凍結」モデルの考案、「アクション・リサーチ」という研究方式、グループダイナミクスによる訓練方法（特に T グループ）など、その業績は多方面にわたる。
Wikipedia：クルト・レヴィン
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%AB%E3%83%88%E3%83%BB%E3%83%AC%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%83%B3

おまけ）　ツァイガルニク効果

（ツァイガルニクこうか、Zeigarnik effect）は、人は達成できなかった事柄や中断している事柄のほうを、達成できた事柄よりもよく覚えているという現象。**ツァイガルニック効果**、**ゼイガルニク効果**、**ゼイガルニック効果**とも表記する。

９）ウィリアム・ジェームズ　（１８４２－１９１０）

（William James、1842 年 1 月 11 日 – 1910 年 8 月 26 日）は、アメリカ合衆国の哲学者、心理学者である。意識の流れの理論を提唱し、ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』など、アメリカ文学にも影響を与えた。パースやデューイと並ぶプラグマティストの代表として知られている。弟は小説家のヘンリー・ジェームズ[1]。著作は哲学のみならず心理学や生理学など多岐に及んでいる。心理学の父である。

日本の哲学者、西田幾多郎の「純粋経験論」に示唆を与えるなど、日本の近代哲学の発展にも少なからぬ影響を及ぼした。夏目漱石も、影響を受けていることが知られている。

Wikipedia:ウィリアム・ジェームズ

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%A0%E3%83%BB%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%BA